

日曜礼拝クラス ダニエル書  
「恐れるな、  
① 神が国々を支配している」

クラス#4 9章～12章  
2011年7月3日



# I. ダニエルの砕かれた心 9章

- ダレイオスの治世第1年：BC522？
- 2節：ダニエルはエレミヤ書を読んでいた。確信は聖書からも与えられた。
- 「主が預言者エレミヤに告げられたように70年という年数のあることを悟った。」
- 神殿再建はBC515。信仰ある祈りを献げた。先祖や民の罪の責任を取り、砕かれた心で祈った。

## Ⅱ. 終わりの時についての幻

- ペルシアの王キュロスの治世第3年(BC536?)

「目を上げて眺めると、見よ、一人の人が麻の衣を着、純金の帯を腰に締めて立っていた。体は宝石のようで、顔は稲妻のよう、目は松明の炎のようで、腕と足は磨かれた青銅のよう、話す声は大群衆の声のようであった。この幻を見たのはわたしダニエルひとりであって、共にいた人々は何も見なかったのだが、強い恐怖に襲われて逃げ出し、隠れてしまった。わたしはひとり残ってその壮大な幻を眺めていたが、力が抜けていき、姿は変わり果てて打ちのめされ、氣力を失ってしまった。」　ダニエル10:5-8

「燭台の中央には人の子のような方がおり、足まで届く衣を着て、胸には金の帯を締めておられた。その頭、その髪の毛は、白い羊毛に似て、雪のように白く、目はまるで燃え盛る炎、足は炉で精錬されたしんちゅうのように輝き、声は大水のとどろきのようであった。右の手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出て、顔は強く照り輝く太陽のようであった。わたしはその方を見ると、その足もとに倒れて、死んだようになった。」

黙示録1:13-17

# ダニエル10章と黙示録1章の対比

## ダニエル書

## 黙示録

1人の人が麻の衣を着て

→ 人の子のような方がおり、  
足まで届く衣を着て

純金の帯を腰に締めて立っていた。

→ 胸には金の帯を締めておられた

目は松明の炎のようで

→ 目はまるで燃え盛る炎

腕と足は磨かれた青銅のように輝き

→ 足は炉で精錬されたしんちゅうの

話す声は大群衆の声のようであった

→ 声は大水のとどろきのようであった

顔は稲妻のよう

→ 顔は強く照り輝く太陽のよう

力が抜けていき、

→ その足もとに倒れて

氣力を失ってしまった

死んだようになって、

彼はこう言った。「愛されている者ダニエルよ、わたしがお前に語ろうとする言葉をよく理解せよ、そして、立ち上がれ。わたしはこうしてお前のところに遣わされて来たのだ。」こう話しかけられて、わたしは震えながら立ち上がった。彼は言葉を継いだ。「ダニエルよ、恐れることはない。神の前に心を尽くして苦行し、神意を知ろうとし始めたその最初の日から、お前の言葉は聞き入れられており、お前の言葉のためにわたしは来た。」 ダニエル10:1

1-12

# Ⅲ. 北対南についての幻



\* ダリウス王の時代の幻： BC522

**「さて、お前に真理を告げよう。見よ、ペルシアになお三人の王が立つ。次に、第四の王はだれにもまさせて富み栄え、富の力をもってすべての者を動員し、ギリシア王国に挑戦する。そこに、勇壮な王が起こり、大いに支配し、ほしいままに行動する。その支配が確立するやいなや、この王国は砕かれて、天の四方向に分割される。彼の子孫はこれを継がず、だれも彼のような支配力を持つ者はない。この王国は根こそぎにされ、子孫以外の支配者たちに帰する。」**

**ダニエル11:2-4**



\* ペルシャの王:

キュロス(539-530)      カンビセス2世(530-522)

ダリウス(522-486)      クセルクセス1世(486-465)

\* クセルクセス1世の統治はペルシャの頂点

\* 勇壮な王 = アレクサンダー大王、

4つに分かれる王国

\* ギリシャ分裂の預言 → 南(プトレマイオス)

対 北(セレウコス)

# アンティオコス4世エピファネス (BC167-164)



- 31節： 彼は軍隊を派遣して、砦すなわち聖所を汚し、日ごとの供え物を廃止し、憎むべき荒廃をもたらすものを立てる。
- 33節： 民が目覚めた人々は多くの者を導くが、ある期間、剣にかかり、火刑に処され、捕らわれ、略奪されて、倒される。
- 35節： これらの指導者の何人かが倒されるのは、終わりの時に備えて練り清められ、純白にされるためである。まだ時は来ていない。

# アンティオコス4世エピファネス (BC167-164)



- 36節: あの王はほしいままにふるまい、いよいよ驕り高ぶって、どのような神よりも自分を高い者と考える。すべての神にまさる神に向かって恐るべきことを口にし、怒りの時が終わるまで栄え続ける。
- 37節: 先祖の神々を無視し、女たちの慕う神をも、そして他のどのような神をも尊ばず、自分を何者にもまさって偉大であると思う。

# 神の国の勝利

45節： 海とあの『麗しの地』の聖なる山との間に天幕を張って、王の宿営とする。しかし、ついに彼の終わりの時が来るが、助ける者はない。

## IV. 最後の勝利： 救い

その時、大天使長ミカエルが立つ。彼はお前の民の子らを守護する。その時まで、苦難が続く。国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。しかし、その時には救われるであろう。お前の民、あの書に記された人々は。多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。ある者は永遠の生命に入り、ある者は永久に続く恥と憎悪の的となる。目覚めた人々は大空の光のように輝き、多くの者の救いとなった人々はとこしえに星と輝く。

ダニエル12:1-3

あなたは終わりまで歩み、休みに入れ。あなたは時の  
終わりに、あなたの割り当ての地に立つ。」

ダニエル12:13(新改訳)

\* ダニエルの割り当て(命、運命)



**「恐れるな、  
神が国々を支配している」**